

## Ⅱ 市政へ臨む基本姿勢

私は、将来に希望のもてる「豊かなまち」を創るために、

- ・「産業基盤の強化」
- ・「補助から投資へ」
- ・「市民とともに改革」

の3項目を重点政策として位置付けたところであります。

まず、1点目の「産業基盤の強化」についてであります。

「豊かなまちづくり」のためには、経済力維持のための産業振興が必要不可欠であります。

そのためには、本市の地域性を生かした今以上に発展が期待される力強い産業を育て、多くの担い手を創出することが重要となってまいります。

気象データでも示されている通り、本市の温暖な気候を生かした伊達野菜を中心とする農業は、一年を通して多種多様な農畜産物を生産できることが強みであり、特に真冬でも新鮮で高品質な冬野菜を提供できる希少な産地であることから、他産地との差別化を図り、新しい付加価値を生み出す取組を進めてまいります。

また、優秀な人材の確保と育成を丁寧に行い、多様な働き手が活躍できる雇用の創出と新規就農者の獲得を計画的に進めてまいります。

大変難しい課題ではありますが、現状に満足することなく持続可能な産業基盤の確立・強化のために市民の皆さまと力を合わせ、実現に向けて着実に進めてまいります。

次に、2点目の「補助から投資へ」についてであります。

人口構造の急変やまちの経済規模の縮小が多くの困難をもたらすと予想されておりますが、競争力の高い選ばれるまちになるためには、人口減少に負けない独創性に富んだ様々な取組を続けていかなければなりません。

そのためには、これまで「補助」という考え方で行ってきた事業についても、将来における効果をしっかりと見据え、まちがより輝くような「投資」へと発想の転換を図る必要があります。

これまでもまちの発展に寄与する投資を効率的に行ってまいりましたが、本年から本格的にスタートする国営緊急農地再編整備事業など稼ぐ力の高い産業基盤の強化や安定化が図られるよう、生産性や収益性向上に必要な取組を進めてまいります。

また、中心市街地の空洞化に危機感を持ちながら未来の地図を描き、まちの価値の維持・向上や有意義な土地利用のあり方について検討を進めてまいります。

次に、3点目の「市民とともに改革」についてであります。

本市においても急速な人口減少が顕在化しており、今後も厳しさを増していく財政状況下で運営していかなければなりません。

その中で今後より重要となるのは、本市の財産である人材を発掘し、市民力の価値を高めることであります。

これまでも第7次伊達市総合計画をはじめ、市民参加型のイベントなど市民の皆さまとともに作りあげてまいりましたが、今後も一体となって本市の魅力を再発見・再認識し、新しい価値を創り出しながらまちの良さを内外に売り込んでまいります。

社会情勢に合わせて臨機応変に事業の見直しを行いながら、「第7次伊達市総合計画」を進めていくためには、市民力を最大限に生かした「市民とともに改革」を基本としながら、持続的なイノベーションを市民の皆さまとともに具体的に進めてまいります。